シリーズ人権教育　第１１４回

「心」の

ユニバーサル

デザインを



「ユニバーサルデザイン」ってどんなもの？

　皆さんは、「ユニバーサルデザイン」という言葉を聞いたことがありますか？

　「ユニバーサルデザイン」とは、「年齢や性別、身体的能力、国籍や文化などの違いを超えて、どこでも、誰でも、自由に使えるような、まちづくりやものづくり、しくみづくりを行う」という考え方です。

　市役所を例に、身近な「ユニバーサルデザイン」を探してみましょう。



窓口の看板（本館１階）

色覚異常の人にも分かり易い配色、また、外国籍の方にも分かるよう、ふりがなと英語を併記しています。



受付の番号表示（市民課）

音声案内と番号表示で、視覚、

聴覚に障害がある人にも、証

明書をお渡しできることが分

かるようにしています。



手話通訳と要約筆記

聴覚に障害のある人にも講演の内容が分かります。



車椅子でも利用しやすく（本館、黒瀬支所）

車椅子での車の乗り降り、窓口を通行しやすいスペースを確保しています。



「バリアフリー」と

「ユニバーサルデザイン」

　これまでは、高齢者や障害のある人の「障壁（バリア）」を取り除くという「バリアフリー」への取組がなされていました。

　現在は、さらに一歩進め、全ての人を対象に、最初からバリアを作らない、「ユニバーサルデザイン」という考え方が重視されるようになりました。

　ユニバーサルデザインと言えば、「施設等の整備」というイメージを持ってしまいますが、相手の気持ちを思いやり、困っている人がいたら「何かお手伝いすることがありますか？」と進んで声をかける優しい心や、例えば、車椅子専用駐車場は、それを必要としている人以外は使わないようにするちょっとした気配りも、私たちにもできる「心」のユニバーサルデザインです。

【参考】「ユニバーサルデザインとは」広島県ホームページ